

中学校 音楽科 第1学年

(1) 題材 「郷土の音楽に親しもう」

- | | |
|---------------|--------|
| 教材 「沖永良部の子守歌」 | 鹿児島県民謡 |
| 「南薩地方の子守歌」 | 鹿児島県民謡 |
| 「鹿児島ハンヤ節」 | 鹿児島県民謡 |

(2) 題材のねらい

郷土の音楽の特徴を感じ取り，リコーダーで重奏することができる。

郷土の音楽を鑑賞し，それぞれのよさを味わったり音楽の背景となる郷土のよさを感じ取ったりすることができる。

(3) 郷土素材について

「鹿児島ハンヤ節」は，六調子のリズムをもち，県下に広く伝承されている。子どもたちは川内市の祭り等でよく聞いて知っており，中には踊ったことのある生徒も多い。

「沖永良部の子守歌」は琉球の音階による旋律で，子守歌らしい優しい感じのする曲である。限られた音域と音による旋律であるのでアルトリコーダーの導入として取り組ませるのに適していると考え。

(4) 学習指導要領との関連（ は重点指導事項， は関連する指導事項）

学年	領域	内 容	沖永良部の 子守歌	南薩地方の子 守歌	鹿児島ハンヤ節
第1学年	A 表 現	ア 歌詞の内容や曲想を感じ取って歌唱表現を工夫すること。			
		イ 曲種に応じた発声により，言葉の表現に気を付けて歌うこと。			
		ウ 楽器の基礎的な奏法を身に付け，美しい音色を工夫して表現すること。			
		エ 声部の役割を感じ取り，全体の響きに気を付けて合唱や合奏をすること。			
		オ 短い歌詞に節付けしたり，楽器のための簡単な旋律を作ったりして声や楽器で表現すること。			
		カ 表現したいイメージや曲想をもち，様々な音素材を用いて自由な発想による即興的な表現や創作をすること。			
		キ 音色，リズム，旋律，和声を含む音と音とのかかわり合い，形式などの働きを感じ取って表現を工夫すること。			
		ク 速度や強弱の働きによる曲想の変化を感じ取って表現を工夫すること。			
	B 鑑 賞	ア 声や楽器の音色，リズム，旋律，和声を含む音と音とのかかわり合い，形式などの働きとそれらによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想を感じ取って聴くこと。			
		イ 速度や強弱の働き及びそれらによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想の変化を感じ取って聴くこと。			
		ウ 我が国の音楽及び世界の諸民族の音楽における楽器の音色や奏法と歌唱表現の特徴から音楽の多様性を感じ取って聴くこと。			
		エ 音楽をその背景となる文化・歴史などのかかわらせて聴くこと。			

(5) 展開(全7時間)

過程	時	教材	主な学習活動	教師の働き掛け
<p>触れる</p> <p>↓</p> <p>つかむ</p> <p>↓</p> <p>深める</p> <p>↓</p> <p>分かち合う</p> <p>↓</p> <p>広げる</p>	1	<p>鹿児島ハンヤ節</p> <p>郷土の子もり歌</p>	<p>祭りの雰囲気を感じて聴こう。</p> <p>鹿児島ハンヤ節 楽器の伴奏に気を付けて聴く。 ・ 三味線, 太鼓 音楽に合わせて太鼓のリズムを打つ。</p>	<p>祭りの雰囲気や踊りと音楽とのかかわりを感じ取れるように「おはら祭り」や「ハンヤ祭り」のVTRを鑑賞するようにする。 太鼓のリズムについて把握することができるように、地域の方が打っている映像を鑑賞させたり、基本のリズムをカードで提示したりする。 ばちさばきを覚えられるように、唱歌(しょうが)を唱えながらばちさばきだけを練習させるようにする。</p>
	2		<p>鹿児島の音楽の特徴を生かして子もり歌を歌ったり、演奏したりしよう。</p> <p>鹿児島の子もり歌を聴いたり、歌詞で歌ったりする。 ・ 南薩地方の子もり歌 ・ 沖永良部の子もり歌 ・ 種子島の子もり歌 など それぞれの子もり歌の音楽的な特徴や味わいについて話し合う。 ・ 子もり歌としての曲想の共通性 ・ 使われている音階の違いと響きの違い</p>	<p>使われている音階やテンポ、歌詞の内容について理解を深めるために、小学校時の学習を想起させたり、使われている音を調べさせたり、歌詞の方言の意味を説明したりする。 それぞれの音階の味わいの違いを音で味わえるように、楽器で演奏して聴いたり、階名で歌ったりする。 同じ歌でも、旋律が分かりやすい録音や地域のお年寄りが歌ったものなど様々な音源を活用し、音楽の特徴を味わいやすいようにする。</p>
	3		<p>子もりの歌の感じをもとに、音色や奏法を工夫してリコーダーを演奏しよう。</p>	<p>リコーダーの運指に慣れるように、旋律に使われている音階で旋律模倣や旋律問答に取り組むようにする。 こんな音色や奏法で演奏したいという思いがもてるように、前時で学習した、子もり歌に込められた思いや曲想を想起させ、テンポや息づかい、タンギングについて考えられるようにする。</p>
	4		<p>子もり歌の曲の感じを生かした音色や奏法について考える。</p>	<p>適切な息の強さやタンギングで演奏できているか、生徒自身が確かめられるように、順番に最初の音をロングトーンさせたり、2小節ずつリレー奏に取り組ませ、適切に助言をするようにする。</p>
	5		<p>音の響き合いに気を付けて、リコーダーで重奏しよう。</p>	<p>技能や興味・関心の差に応じて、それぞれの子もり歌から取り組む曲を選択できるようにする。</p>
	6		<p>2, 3のパートをリコーダーで演奏する。</p>	<p>また、技能の個人差に応じて段階的に取り組めるように編曲を工夫する。</p>
	7		<p>グループに分かれて重奏する。</p>	<p>自分たちの響きを確かめたり演奏上の課題を発見したりすることができるように、2グループずつ組をつくり、グループ同士で聴き合う場を設定するようにする。</p>
			<p>グループごとに発表し合う。</p>	<p>グループごとに聴き合う場で出された課題を集約し、それぞれの発表を鑑賞するときの観点をまとめるようにする。 南北600kmもの広大な県土に、様々な音楽が存在することを楽器や音階の特徴、歌詞に込められた思い伝承の様子等について説明し、郷土の音楽についてのさらなる興味・関心をもてるようにする。</p>
			<p>全員で合奏し、郷土の音楽のよさについてまとめる。</p>	

